

セルカークカレッジ プログラム参加報告書

外国語学部英米学科 2年
(参加当時)

留学先での取り組みについて

授業に関してはプレースメントテストの結果によってレベルとクラスが決められました。時間の都合でリスニングを除く「リーディング・ライティング・インタビュー」のみのテストが行われ、私はコミュニケーションのクラス以外、レベル5に振り分けられました。どの授業もレベルが高い分、授業内容も難しく、課題も多く出されました。

特に難しいと感じた授業は、ライティングのクラスです。3週間とはいえ、週に2回、約120分の授業が行われ、想像以上にきついものでした。ただ書くだけでなく、ペアワークやグループワーク、単語の復習、最終課題に向けたより良いライティングの書き方など、様々なことを行いました。また課題では、エッセイを読み、それにまつわる英問英答や単語の定義について解答するものや、人間観察をし、そこで考えたことを文章にしたFirst Draftの提出がありました。ライティング課題も難しかったのですが、その課題提出後に授業内で行われたPeer reviewの時間もかなりハードでした。Peer reviewとはペアでお互いのFirst draftを読み、意見しあったりアドバイスを考えたり質問をし合ったりして、エッセイを評価し合います。私は、韓国人とペアになりました。彼女のエッセイは読みやすく、エッセイ内の表現や単語の使い方など勉強になるものがありました。自分の評価したことを正確に英語で相手に伝えることは、私にとって一番の課題でした。しかし、彼女は真剣に私の話を聞いて理解してくれたので、本当に嬉しかったです。その時に、自分の英語が伝わったのだと、少し自信につながった気がしました。

また、セミナーと呼ばれる時間があり、ショート動画を作成する「Movie Making」というクラスや、カナダについて学習する「Canadian Studies」というクラスもありました。どちらのクラスもとても楽しく、学ぶことが多くありました。

当然のことですが、授業は英語で進められますし、ペアやグループ内の会話も英語で行う必要があります。他言語で、自分の意見や思いを正確に伝えることの難しさを感じるとともに、伝わった時の喜びや英語を使って会話ができているという楽しさも味わうことができました。

学外での経験について

週末には、ホストマザーの実家の近くにある、湖でバナナボートやカヤックをしました。カナダの広大な自然を味わいながらの水上アクティビティはとても楽しく、印象深く残っている思い出の一つです。しかしその時、ホストマザーの親族たちも来ており、テンポの速い会話を聞き取ったり、話したりするにはかなりの労力が必要でした。



また、カナダ到着の数日後の出来事だったこともあり、なかなか話せないし会話に入ることもできませんでした。しかし、会話できたことはとても有意義な時間でした。

また他にも、先生が主催するホームパーティーに参加したり、大学の学生たちが主体となって開かれたダンスパーティーに行ったりと、充実した学外活動を過ごしました。

放課後や空きコマ、昼休みには、北九大の友達と一緒に買い物したりカフェに行ったり、課題をしたりして過ごしました。学内にテーブルサッカーゲームが置いてあり、そこで遊んだことも良い思い出です。



学び、変化や気づき

私は約一か月の語学研修で、膨大な経験と学びを得ました。全ては書くことができないので、主に3つのことを書きたいと思います。

一つは、英語力についてです。私が語学研修に参加した一つの理由として、自分の英語力を知るためでした。自分はどこまでできるのか試したかったのです。幼い頃から習っているからと少し自信を持っていた私は現実を知りました。自分はこんなにも話せないのかと。とっさに言葉は出ないし、話してくれたことに対する感想やリアクション1

つすらも言えない。コミュニケーションがほとんどできなかったことに、かなり落ち込みました。「読む・書く」ができて、「聞く・話す」ができないと会話にならないのだと、その時になって気づかされました。日本語で当たり前に行っていたことが、英語になると一気にできなくなることを知って、悔しい思いをしました。しかし、それを知ることができたからこそ、もっと会話をしようと積極的になり、自分の知っているフレーズや聞き方で相手とのコミュニケーションに臨みました。そのおかげで、だいぶ英語力を向上することができたと思います。

二つ目は、自分自身についてです。日本と全く異なる言語や文化に触れ、また、現地の人だけでなく、韓国や中国、アジアの人たちといった様々な人たちと交流する中で、自分の常識が相手やその国の常識ではなく、またその逆も起こり得るのだと、肌で感じました。そのおかげで、自分の行いや考えを見直すことができました。そして、自分の内面に目を向けることができました。カナダ滞在中のアクティビティやホームステイを通してこれまでより、自分は何が好きで何を嫌いなのか、何がしくて何をしたくないのか、といった私自身の意志を持てるようになったと思います。また、積極的に行動していく姿勢の重要性に気づかされました。察する文化や遠慮、受け身という考え方をほとんど持たない場所で、自分の意見を持たないのは危険だし、待っているだけでは相手は自分に興味すら持ってくれないのだと実感しました。そのため、日本の文化や風潮に甘えすぎていた自分を見直し、もっと「自分」を持ち、相手にしっかりと伝えていこうと思いました。そして、何事にも、積極的に興味を持つ姿勢も身に付けていきたいと思っています。

三つ目は、日本のことです。初めて日本を出た私にとって、日本と違う点が多いことに改めて気づかされました。海外経験談や映像、自分の知識として知っていても自分の肌で感じると、やはり違う国なのだと実感しました。例えば、キャンパスが自然に囲まれた場所にあったということもあったからかもしれないけれど、交通手段がバスのみで限られていたことや休日にはそのバスすらも運転されないといったことは、日本では考えられないと思いました。日本との違いを感じることで面白いなと思いました。日本の移動の便利さや、常に活動しているという忙しさも考え、それが当たり前でない国があるのだと知ることができました。

今後どう活かすか

今後、もっと積極的に英語で会話する場面を作ったり、そういった場所に自ら参加し

たいと思っています。今回の語学研修までの私は、英語で行う日本人とのディスカッションや英会話をするのが恥ずかしさを感じ、避けていました。また、話すなら完璧な文法や単語の使い方と発音が必要であると、自分が英語を話すハードルを自ら上げていたような気がします。しかし、現地の大学では、嫌でも日本人と英語で話さないといけないし、授業内では完璧に話すための準備の時間ありません。そしてクラスの中には、独特な発音や訛りを持った人たちもいます。その中で、もう話すしかないのです。間違えてもいい、完璧じゃなくていい。そういうことよりも相手に自分の考えや思い、興味を伝えることが重要なことだ。そう思えるようになり、自分の中の「英語を話す」というハードルが下がったような気がして、「もっともっと話したい」と感じることができました。これは、英語を話す上で初歩的なことかもしれないし、大学二年生で遅いかもしれないが、もっと練習して、英語をアウトプットしていきたいと思っています。そのために、この一か月の経験をモチベーションにして、英会話の向上に向けて頑張ろうと思います。